

さくらだより

第9号

2008年2月1日

社会福祉法人京都老人福祉協会 京都市伏見区深草大亀谷東古御香町59番地・60番地 TEL.075-641-6622 FAX.075-641-6746

先生のお言葉「すなおな心、上手に書くと思わず」と、やる気を出させてくださり、嬉しく続けております。「さくら」(さくらだより)にあやかっ(入居して)一年足らず、老いて明るく元気でいききたいと思(います)。

笑って送るも
泣いてくも
同じ一ま
泣くもよ
また笑も
竹殿

ことば

京都老人ホーム 施設長 三代 修

今、介護事業者の間では「人が足りない」「募集しても応募がこない」という話でいっぱいだ。重労働で低賃金、こんな割に合わない仕事はないというマスコミ報道もあって、この世界の人(は)はただただ我慢して働いているかのように見られているらしい。

私たちの日常は、利用者さんやご家族の声に耳を傾け受け止める。その人らしい暮らしを支え守る。笑いや喜びを分かち合う、汗をかく、時には涙する。ホントは楽しさもやりがいもある。社会を支え、切り開いている誇り(だ)である。

いい仕事をしよう。もてる力は最大限高め精一杯(だ)そう。人間としても成長しよう。私たち一人(ひと)ひとりも事業者としての法人(も)おんな(じ)だ。

「私たちの職場には夢も、希望も、誇りもある。」地域の人(たち)にもそんな声(を)伝(え)たい。



ハートで
ぬくもりと安心を
お届けします
京都老人福祉協会

声

夜間対応型訪問介護 サービスははじめました!



一人暮らしでなくても高齢者世帯や、家族が夜遅いので一人の時間が長い等、様々な状況で不安に過ごされる高齢者は大勢おられると思います。

「病院や施設のように
ナースコールが欲しい」

そんな声を受けて、昨年四月より、夜間対応型訪問介護が、スタートしました。

夜間対応型訪問介護とは

住み慣れた地域で住み慣れた家で暮らし続けるために、京都市が推し進める地域密着型の訪問介護事業です。対象者は、要介護認定をうけておられる伏見区在住の方。緊急通報システムのように、独居の方でご近所の協力員さん二名が必要ということではありません。

申し込みいただき登録、ご自宅に通報システム装置と、通報ペンダントを設置します(電話回線がないと設置できません)。夜の六時から翌朝八時迄、トイレに行つたけど立ち上がれない、ベッドから落ちてしまったなど、通報いただくとオペレーターセンターの専門資格をもったオペレーターが対応いたします。ご利用時間については、緊急はいつ起こるかわかりません。夜間対応としての時間は夜の六時から朝八時までですが、夜間対象外となる日中も対応いたします。

声が出せない、ボタンを押すのがやつとという状況でも、オペレーターセンターには、誰からの通報かが判るしくみになっており、夜間訪問、救急車の手配、遠方の家族様への連絡など、対応させていただけます。

また、ご家族が出張や法事で不在、家に連絡しても電話に出ない、大丈夫だろうかとのご連絡があれば対応させていただきます。

「電話につながらない
時はないの?」

不安で眠れない、相談のつてほしいとの電話も大丈夫。オペレーターが対応中でも、システムをとおして、すべての通報が確認できます。すぐにつながるなくても、通報されないことは絶対にありません。

「家の中にはどうやって
訪問されるの?」

必要に応じ玄関横に暗証システム付きのキーケースを設置します。暗証ボタンでキーの鍵を解除、ご自宅の鍵をとりだしてそれで家に入らせていただきます。暗証番号は利用者様で決めていただき、定期的に変更。不審者の侵入を防ぎます。

毎日の安心、不安の解消。さまざまな声があがり、ニーズとなってより安全な生活のお手伝い。レンタルだけ、サービスは特に使っていない、配食サービスだけという方、毎週ヘルパーさんはいらないけど緊急時にかけてほしいという方には、新たな選択肢です。

伏見の夜に、安心の灯かりがひとつずつ灯されます。

(注) すべての要介護者が利用できるわけではありません。これは介護保険のサービスですので、介護限度額があります。一ヶ月一、〇〇〇円単位、一、〇六〇円の自己負担。ヘルパー訪問を受けると、夜間であれば別に料金が発生します。

ケアマネジャーや、ご家族と相談の上、限度額内でおさまるか、派遣対応できるように、限度額の見直しが必要です。

また、要支援認定となれば、また、自己負担か解約のいずれかになる場合があります。

お問合せ

☎075・645・6564

あんしんネットワーク伏見まで

あなたの声

私達は普段、利用者の何に重きを置き、生活を援助しているだろうか?

私達にとって一番重要なことは観察であると思ふ。観察という行為には人間の「認識」というプロセスが含まれている。観察者が誰であるかが、そこには以下のような問題が潜んでいる。

先入観・主体と客体

まずは先入観：人間は、直接に対象に出会う以前に、他の言葉とか、メディア、書物などから得た不十分な知識や、そこから導かれる対象に対する態度の様式を持つているもので、その結果として、ネガティブな認識や対象に対する評価がもたらされるようなものを「先入観」という。

もう一つは主体と客体で、「見るもの、知るもの(主体)」と「見られるもの、知られるもの(客体)」の二種類の存在

を認める。私達が利用者を援助するとき、自分の眼で見える部分を援助することは、日々の積み重ねにより援助できることが多いと考えます。しかし、対象が健康に何らかの障害をきたしているのか、あるいは対象が健康を増進させる為にはどうすればよいか、さらにその必要性はあるのかと観点を広げること、先入観の全体像を把握でき、先入観の介入がよりよい医療・援助を提供できると考えています。そこには、私達、医療従事者や介護士など関係者がそれぞれから見た(観た)、聞いたなど情報を共有し総合すること、さらに利用者自身の訴え(声)に耳を傾けることが必要であると思ひます。

利用者の訴え

例えば利用者が「痛い」と訴えていたとする。客観的に観たものを優先する可能性を大いに秘めている為、利用者の「痛い」との訴えに痛みを分かちあえず、痛みの程度を理解することは不可能です。

その為、痛みを自分自身で理解してしまう可能性がありません。また、言葉を上手に話せない利用者がいたとする。私達に対して何かを訴えようとすることも言葉で表現することができない為、どうか身体や物を使用して伝えようと努力する。私達はその行動を患者の言葉として受け止め、行動から利用者の訴えを読み取り、判断・理解する必要があります。そして、私達はその利用者の訴えに加え、観察を行い、そこから得た情報を私達、医療従事者からの観点を総合して共有し解決することで、よりよい医療・援助を提供していくことができると思ひます。

人間的欲求

アメリカの心理学者・アブラハム・マズローが述べる

「人間は自己実現に向かって絶えず成長する生きものである」と仮定し、人間の欲求を五段階の階層で理論化している。その五段階の欲求とは、生理的欲求(衣食住の充足)、安全の欲求、他者との関わり、欲求、尊敬されること、自己実現の欲求である。患者の様々な訴え(声)はこの五つの欲求に基づき声として表現され、私達が客観的な面と統合し問題を解決することで充足し、その結果、利用者は「生きている」と実感できるのではないのでしょうか?

あなたの声

私達は利用者の一部(声・脳)となり、利用者のニーズを適えられる存在であると言える。しかし、その為にはまず利用者の普段の生活の中で訴え(利用者の心の声)に耳を傾けてほしい。私達は、訴え(声)を聞ける・気づける相手の一人であるのだから。

(1) ネガティブ：否定的・消極的という意味。

医療室

声

Theme
サイン

東高瀬川センター

『おかあさん おしっこー!』

いつもデイサービス・ショートステイ・訪問入浴をご利用頂いている、平野婦女子様（大正二年のお生れで今年で九四歳）の次女の絢子様に「お聞かせ下さい。あなたのお声」と題してお母様のことや、介護の苦労話など貴重なお話をご自宅でゆっくりとお聞きしました。

「若い頃の平野さんは
どんな方でしたか？」

おっとり、ふっくらで温厚な京都の人という感じがですが、小学生の時、武徳会（今の踏水会）にて琵琶湖の遠泳で五時間以上も泳いだこともある、水泳の得意な活発なお嬢さんだったそうです。十一人家族の長男の家に嫁



▲幼少時代の平野さん
右：左下、お姉さんと 左上、甥御さんと

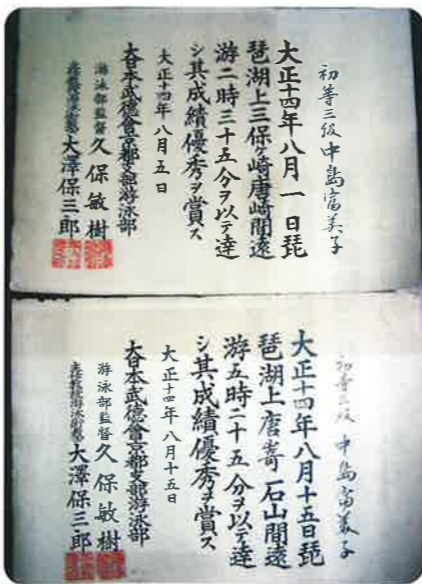
その後、結婚十年後に長女を出産し、私、妹を授かり、それは大変な毎日だったと思います。

「娘さんから見ると平野さん
ってどんな方ですか？」

八十五歳の時（平成十年五月）に大腸癌の為、人工肛門になってからお互いに関係が丸くなりましたが、それ迄は私が出戻ってから火花が飛び交っていました。「絢子とだけは暮らしたくない」と話す母、洗濯物は物干し場の北と南に分かれてお互い干していました。

人工肛門の手術の時も勝手に点滴を抜き、三日間も何も食べませんでした。全身麻酔し手術しましたが、その時に「母を今の状態で亡くしたら私は一生後悔する」と思いました。

また手術後から認知症が見られる



▲琵琶湖遠泳の時の賞状

ようになったと思います。『娘さんしか知らない平野さんのお話を教えてください』

祖父が御所の庭園の長を勤めていたらしく御所のお話が大好きで、和裁の仕立て・おはぎ・ちらし（その他、巻き・いなり・鯖）寿司が上手な母でした。将棋（はさみ・兵駒周り）・花札が大好きで妹と今でもしています。昔は玉子掛けご飯が好きでしたが、今では好き焼きが好物。とっておきは、目が覚めたら私のことをおかあさんと呼ぶのです。

「おかあさんおしっこ」と

話す母がとっても可愛いです。

「介護をされている
苦労話など」

認知症のためか、本人にとっては便が肛門から出ているとしか思えないようで、夜中にもふと目を覚ますと、トイレに行くと言い、ポータブルトイレを押ししてトイレに行こうとします。しつかり歩けないのに時々ポータブルトイレが移動しているのでびっくりし

▲ご家族の皆さんと 一番右が平野さん



ます。また私がない間に洗濯物を取り込まなくてはと近所の人に頼もうと玄関まで行こうとするが断念して、自分で二階まで上ろうと階段においてある物を下に落としたりからクタクタになっていたりすることもありました。ハイな状態の夜は一時間毎に「おしっこ、おしっこ」と言い、寝ていないこともあります。

そんな中でもポータブルトイレに座る時、お互いの肩にあごをのせて遊んだり、着替えの手伝いをしてる時に母が腕を掴んでチョッカイを出してきたり、私が「しんどい、しんどい」と言っていると「お茶碗洗おうか?」「洗濯物しよか?」と心配してくれたり、「なにかうまいもんくわせてくれ、金はいくらでもある」と急に話すお母さんにびっくりするやら、大笑いするやら…

昔は火花が飛び交う関係でしたが、今では母が残したご飯を何の抵抗も無く食べるこ

とが出来るんです。「私、婦女子さんみたいに



▲平野さんと絢子さん 60歳でそれぞれのお孫さんと

なりたい」と話すと、「あんたにはなられへん」と笑って答える母。

そんな大変な日々も明るく過ごす毎日の中で、母は若い頃からたくさん苦労をしてきたと思うので、できるだけ甘えさせてあげたいと思います。また入院だけはもうさせたくないのて精一杯してあげたいと思っています。姉や妹も毎週どっちか来てくれるのでありがたいし、助かっています。お母さんこのまま百歳まで頑張ろうね。

「この機会にお母さんに
お伝えしたいこと」

九四年も頑張ってきたのだから何もしなくていいよ。用事があれば私に言っ。二人でこのままポチポチ暮らそうね。

お姉ちゃんも厚ちゃんも、婦女子さんのこと、大事にしてくれるから幸せね。上手に三人の娘、育てたね。みんな婦女子さんのようなお婆さんになりたいと思ってるよ。私達三人の母で良かった。



▲平野さんと絢子さん

特別養護老人ホーム

声



カラオケ喫茶ひろこ。施設での行事は季節毎に行われていますが、お楽しみ会として、居酒屋、喫茶、花火、カラオケなど、各フロアにて、色々趣向を凝らし行っています。その中でもカラオケは、皆さん楽しみにされています。



入居されている方が、以前スナックのママをされていて、ひろこママを中心にフロアをパーティーションで仕切り、テーブルを配置替え、テーブルクロスなどでカラオケボックス風に雰囲気作りをして、歌を聞きながら職員が

養護老人ホーム

小さな

プルタブの

声



四年程前のある日。職員がゴミの回収をしていた時のことです。自動販売機の横のゴミ箱には、空き缶、ジュースの紙パック、紙くずとすべての物が混入されていました。それを、燃えるもの、燃えないもの、と分別していくうちに、ふと、「これって何とかならないのかなあ」とささやく声がありました。毎日毎日大量のゴミ、特に空き缶は「地域の空き缶、瓶のゴミの日？」「廃品回収？」。

漠然とではあるが、以前何かで聞いたことがある。「車椅子がもらえる」って。果たして本当なのか調べてみました。すると、間違いなくありました。「地球環境を守り、福祉に役立てよう」という、ひととき目を引く団体が。まさに私たちが求めていたものでした。空き缶のフタの部分「プル

タブ」を集め車椅子と交換するという内容でした。

その後、自動販売機の横には、空き缶専用のゴミ箱を設置し、利用者も職員も一人一人が意識して分別するよう心がけました。職員が業務の合間に、一つ一つの空き缶からプルタブを外す作業を行っている状態です。職員からその家族へ、家族から知人へ、また、施設に関わる業者の方まで。まるで小さなプルタブの「声」が伝わるかのように回収作業は広がり、たくさんのプルタブが私たちの手元に届けられています。

平成十九年十二月現在、重量が百キロに達しました。一台の車椅子交換には八百キロが必要ですが、気が遠くなるほどの時間と量を要することに驚きも感じます。本当に小さなとりくみですが、コツコツと全員で「プルタブで車椅子を」の目標に向かって、回収作業を進行させて行くつもりです。今後とも養護に「光輝く、一台の車椅子」の為に、ご協力お願いします。利用者にも一日も早く使ってもらえるよう頑張っていきます。

新井工業 山陽特殊製鋼株式会社 保全一係 保全三係株式会社河内工務店、その他皆様のご協力をいただきましたありがとうございます。

デイサービスの「声」



ほっこりのデイサービスは、毎日たくさんの声で賑わっています。朝の挨拶で久しぶりに会われた方も「久しぶり〜元気やったか？」とお互いが元気な事を喜ばれ、なじみの方と笑顔で挨拶をされています。

フロアに移動されて午前中はゆつくりお茶を飲みながらお話しされ、しばらくすると職員の元気な掛け声で体操が始まります。その後ゲームをされて盛り上がる方もおられ、楽しそうな話し声や笑い声が聞こえてきます。昼食前には皆さんで、誤嚥をしにくくする為に大きな声で発声練習をしています。午後からは歌の好きな方はカラオケをされリズムの良い歌声が聴こえてきます。カラオケに行かれない方は、手芸

未だ見ぬ方の

声

「僅かですが老人ホームの方々のお役に立てて下さい」という声（お手紙）と共に今回も寄付金が届きました。差し出し人はわかりませんが、もちろん住所も。わかっているのはそれが平成十五年度から続いていること。差し出しの郵便消印が毎回、必ずしも同じではないということくらいです。

どういう経緯なのかもわからず、しかも法人にとってもあまり経験の無いことでしたので、初めの頃はただとまどうばかりでした。心当たりのある職員がいなかったが、試みたこともありましたが、これといった確信も無く、あれこれ想像するのみでした。いずれにせよ、まったく無縁の方ではなく、当法人に係りのある（あるいは係りのあった）方であろうかと思わ

れます。実はこのことを記事にしてよいものかどうか迷いました。送っていただいた方はこうやって公表することを望んでるわけではないでしょうし、ましてや大袈裟に騒がれることも。

だけど、私たちの思いとしてどうしても一言感謝のこぼれを伝えたくて記事にすることを決心しました。他に伝える手段もなく、もしかしたらこの「さくらだより」を手にする方でもないかもしれないが、もし、この記事を目にする方であるならばこの場を借りお礼を申し上げたいと思います。

「本当にありがとうございます。そしてこれからも京都老人福祉協会をよろしくお願います。」



未だ見ぬ方へ 京都老人福祉協会 職員一同

「お誕生会でのご利用者様は…調理師の思いは…」



特養のお誕生会は今までずっと「統一してすべての利用者さんに食べやすい」ということから果物ゼリーやプリン、パバロア等を中心に調理師が作っていました。

ですが、4月から2ヶ月に一度の誕生会をフロアでも担当を設け、調理師も各6フロアの担当制としました。日にちも全フロア違い、担当者同士が都合のいい日に設定。人数もその月の誕生会で10人の所もあれば、2人の所もあり、まちまち。調理師が誕生会を担当することで、あまり接点の少ない利用者のことを少しずつですが理解し、名前と顔が一致するようになってきつつあります。

調理師は2ヶ月に一度とは言え、何にするか考えたり、試作して皆でチェックし合ったりと、終わったら直ぐに次の誕生会の準備が始まる、と緊張感たっぷりです。

季節の食材を使い、それぞれに食事形態の違う方々をいかに楽しく食べて頂けるかを考えながら調理師があれやこれやと試行錯誤…

そして、誕生会当日!!

にぎり寿司、鍋、刺し身、ガランティーヌ、ラタトゥーユ、海老と豆腐のハンバーグ、デコレーションケーキ、等々今までに数々の食事、デザートを作ってきました。

和洋折衷、こだわりのある料理を、調

理師が今までの経験を活かしてフルに発揮出来る日でもあります。

担当者は利用者さんの反応が毎回気が気じゃありません。

喜んでる姿が目に見えて解る利用者さんもらっしやれば、理解して頂けているのだろうか? 提供した食事がお口に合わなかったのだろうか? と不安に思う一面も時にはあります。

時には涙を流して、「こんなお祝いをしてもらって幸せ!」と話す方や鍋の時には熱かんを頂きたいとの要望、お顔を真っ赤に染めながら嬉しそうに踊りをし、いつもは自分でお箸を使えず職員の食事介助により食べられる方が、誕生会では自らの意思でお箸を持ち、誰よりも一番に食べたいという意欲を見せる利用者さんもらっしやいました。

この反応、声、言葉に出来ない思いを伝えてもらうことで、次の誕生会も頑張ろう、とスタッフも意欲をわかせています。

涙の意味や、発せられない言葉の意味、食事が何よりも利用者にとって大切なのだと再認識させられることもあり、普段言えない声や思いを誕生会の時は叶えてあげられているのだらうかと思えます。



社会福祉法人 京都老人福祉協会グループ

新規事業所紹介

- ◆ 稲荷の家ほっこり
住所 京都市伏見区深草稲荷鳥居前町17-4
TEL 075-641-2700
- ◆ おぐりす(小栗栖)センター
住所 京都市伏見区小栗栖南後藤町84-2ヴァンペール西井1F北側
TEL 075-575-2455

その他の施設: 京都市伏見区地域介護予防推進センター、京都市深草・北部地域包括支援センター、稲荷の家ほっこり、深草センターほっこり、東高瀬川センター、京都市東高瀬川地域包括支援センター、板橋の町ほっこり、小栗栖センター、京都老人ホーム、醍醐の家ほっこり、春日丘センター、京阪宇治線、宇治川、木福、六地藏、山科川、外環、地下鉄東西線、赤池、竹田、津知橋通、伏見、東高瀬川、板橋、伏見橋山、伏見橋山、中津島、向島、横大路、大手筋、国道一号線、近鉄京都線、名神高速道路、JR

お知らせ

● いらなくなった綿の古衣類、ボロ布お譲り頂けませんか? 皆様からご提供いただいている綿布大変助かっています。引き続き要らなくなった綿布がありましたら、ご提供よろしくお願いたします。

● 養護老人ホームの改修にともない、正面玄関が変わりました。新玄関については事務所にお問い合わせ下さい。

☎ 〇七五―六四一―六六二二